

東京帝國大學教授
本會學術部長
公衆衛生院長

長谷部 言人(本)

林 春 雄(本)

興亜文化部長

廣 瀬 久 忠(本)

千葉醫大教授

松 村 壽(本)

企畫院調査官

美濃口 時次郎(1)

文部次官

大村 清 一(本)

貴族院議員

關屋貞三郎(本)

陸軍省衛生課長軍醫大佐

渡 邊 甲 一(1)

厚生省豫防課長

南 崎 雄 七(2)

公衆衛生院

野邊地 慶三(2)

公衆衛生院

齋 藤 潔(2)

京城帝國大學教授

水 島 治 夫(1)

傳染病研究所員

小 島 三 郎(2)

第二常置委員會委員長

吉 田 熊 次(本)

第二常置委員會委員

今 井 登 志 喜(本)

第十二常置委員會委員

東 畑 精 一(本)

第十二常置委員會委員

蘭 部 一 郎(本)

財團法人人口問題研究會主催第三回人口問題全國協議會

口問題全國協議會

財團法人人口問題研究會の主催にかゝる第三回人口問題全國協議會は昭和十四年十一月六、七日兩日に互り、東京市神田區一橋講堂及如水會館に於て開催された。時局の推移に伴ひ人口問題の意義が愈々重要性を加へつゝある折柄、本協議會の開催は各方面の注目を惹き、全國各地より斯界の權威者を始め、本問題に關心を有する官民の參集せる者四百名、研究報告者百名を超え、前二回のそれにも優る盛況を呈した。

特に小原厚生大臣より本協議會に對し左の諮問があつた。

(諮 問)

第三回人口問題全國協議會

現下ノ時局ニ鑑ミ人口政策ノ見地ヨリ國民生活安定ニ關シ特ニ留意スベキ點ニ付其ノ會ノ意見ヲ諮フ
昭和十四年十一月六日

厚生大臣 小 原 直

說 明

今次事變ノ進展ニ伴ヒ人的資源保持涵養ノ要感緊切ヲ加フル處人口狀態ハ國民生活安定ノ如何ニ左右セラルルコト尠シトセズ仍テ時局下人口政策ノ見地ヨリ國民生活ノ安定ニ關シ特ニ留意スベキ點ニ付其ノ會ノ意見ヲ求ムル次第ナリ

之に對する同協議會の答申は次の如くである。

政府諮問答申

今ヤ我國ハ非常時局ニ遭遇シ、之ガ難局打開ニ向テ邁進スベキハ言ヲ俟タザル所ナリト雖、長期ニ互リテ能ク堅忍持久、以テ所期ノ目的ヲ達成センガ爲ニハ、國民生活ノ安定ヲ圖リ、國家發展ノ素地ヲ培フノ必要アリ。

人口問題ノ見地ヨリスルモ、人口支持力ノ基本タル國民生活ヲ不安ニ陥ランメ、之ガ對策ヲ怠ルニ於テハ、其ノ影響スルトコロ出生率ノ低下、死亡率ノ高騰、國民體位ノ劣化ヲ來スベキハ疑ヲ容レズ、斯クテハ國防上ノ基礎ヲ弱メ、國家發展ノ進路ヲ塞グニ至ルベキヲ以テ、人口對策トシテノ國民生活安定ニ關スル方策ヲ講ズルコトハ、現下ノ情勢ニ鑑ミ緊要ノ事ニ屬ス。

仍テ人口政策上特ニ留意スベキ國民生活安定ニ關

スル具體的方策ヲ擧グレバ左ノ如シ。

第一、婚姻生活者及子女保護ニ關スル事項

一、婚姻獎勵ニ關スル件

(一) 既婚者、就中子アル配偶者ノ優先採用

其他優遇方法ヲ勸奨スルコト

(二) 結婚費用特別貸付ノ方法ヲ實施スルコト

(三) 結婚費用軽減ヲ目的トスル諸施設ヲ助長スルコト

(四) 結婚紹介ニ關スル事業ヲ公益化シ之ガ機關ヲ増設スルコト

(五) 既婚勞働女子乃至職業婦人ノ職業上ノ地位ニ特別ノ保護ヲ加ヘ雇傭關係ノ維持等ニ特別ノ考慮ヲ拂フコト

二、母性及乳幼児、兒童ノ保護ニ關スル件

(一) 有料及無料産院及乳兒院ノ増設

(二) 訪問婦制ノ實施普及

(三) 保健所ノ増設

(四) 保育所並育兒院等ノ充實増設

(五) 勞働婦人乃至職業婦人ニ對スル母性保護、特ニ産前産後ノ有給休暇制ノ實施

(六) 兒童營養食配給施設ノ普及

三、多兒家庭ノ保護ニ關スル件

(一) 家族手當制ノ設定

(二) 所得税ノ家族控除額増加

(三) 地方税ノ家族數ニ應ズル負擔軽減

(四) 其他大家族世帯ニ對スル或種課税ノ減免

(五) 教育費ノ補助又ハ軽減

第二、國民保健ニ關スル事項

一、健康保險其他ノ社會保險並ニ救貧制度ニ關ス

ル件

(一) 現行健康保險諸制度ノ充實擴張

(二) 老廢遺族保險其他ノ社會保險制度ノ整備
新設

(三) 救貧制度ノ擴充

二、醫療機關及制度ニ關スル件

(一) 一般醫療機關ノ充實普及

(二) 醫療費ノ負擔輕減ヲ目的トスル醫療制度
ノ擴張

三、結核及花柳病豫防ニ關スル件

(一) 結核豫防ニ關スル施設ノ徹底、機關ノ擴
張

(二) 花柳病豫防ニ關スル特別施設ノ擴充

四、榮養食配給施設ニ關スル件

(一) 公設食堂及共同炊事場ノ増設、榮養指導
ノ強化

(二) 榮養配給組合ノ擴充指導

第三、庶民生活ノ經濟擁護ニ關スル事項

一、日常生活必需品ノ配給ニ關スル件

(一) 食糧配給ノ全國的調節ニ關スル施設計畫

(二) 公私設小賣市場ノ社會施設トシテノ機能
發揮、之ニ關スル法制ノ整備

(三) 一般庶民配給機關トシテノ消費組合ノ普
及發達、之ガ爲必要ナル法律ノ改正又ハ制定

二、住宅政策ノ實施ニ關スル件

建築材料ノ價格低廉化、之ガ供給ノ緩和ニ關
スル適切ナル對策ヲ講ズルコト

三、庶民金融機關ノ整備改善ニ關スル件

(一) 一般庶民金融機關トシテノ信用組合ノ普
及發展、之ガ爲必要ナル法律ノ改正又ハ制定

(二) 現行庶民金庫ノ整備擴充

(三) 公設質屋ノ對人信用施設トシテノ改善強化

第四、生活刷新ニ關スル事項

由來我ガ國民ノ日常生活ニハ虚禮冗費ノ因襲ニ
振ハレタルモノ甚ダ夥シトセズ、消費ノ合理化ニ
俟テ生活ノ簡易化ヲ期スベキコトハ多年ノ懸案タ
リ今ヤ事變下ニ際會シテ之ガ解決ニ努ムルニ於テ
ハ雖テ國民生活安定上ノ補足的方策タルコトヲ失
ハザルベシ

一、消費ノ合理化、生活ノ簡易化ニ關スル件

(一) 時代ニ適應スル計畫ニ基キ消費ノ節約、
貯蓄ノ獎勵ヲ徹底スルコト

(二) 時代ニ適切ナル考案ニ基キ虚禮ノ廢止無
駄ノ排除ニ努ムルコト

(三) 國産品若クハ代用品ノ愛用、廢品ノ利用

(四) 服裝ノ改良、就中形式的儀禮用服裝ノ改
廢

二、禁酒制酒ニ關スル件

非常時局ニ鑑ミ禁酒制酒ノ勵行ニ努ムルコト

尙同協議會に於ける日程、研究報告題名及研究報告
者名を掲げると次の通りである。

日 程

一場 所 東京市神田區一橋通町一丁目一番地

一 橋講堂及如水會館

一日 時 昭和十四年十一月六日(月曜日) 七日
(火曜日)

一日 程

第一日 十一月六日

1 午前九時——同十時三十分

總會(一橋講堂)

(イ) 會長開會ノ辭

(ロ) 厚生大臣告辭

(ハ) 内閣總理大臣祝辭

(ニ) 幹事報告

(ホ) 政府諮問事項ノ提示

2 午前十時三十分——正 午

研究報告會(一橋講堂及如水會館)

3 正 午

厚生大臣招待午餐會(如水會館)

4 午後一時——同五時

研究報告會(一橋講堂及如水會館)

特別委員會(矢野記念館)

第二日 十一月七日

5 午前九時——午後二時三十分

研究報告會(一橋講堂及如水會館)

特別委員會(矢野記念館)

6 午後三時——同五時三十分

總會(一橋講堂)

(イ) 研究報告ニ關スル座長報告

(ロ) 政府諮問ニ對スル答申ノ議決

(ハ) 會長閉會ノ辭

7 午後六時三十分

本會招待晚餐會(如水會館)

研究報告會プログラム

第一部 人口問題に關する一般的研究

(1) 日本婦人の妊孕閉止年齢限界の統計的研究
並に本邦標準兒數と結婚年齢の基準に就て

(2) T・E・スタイン博士の「日本人
口政策論」とその批判

(3) 新田開發村の人口構成に關する
一報告

(4) 岐阜縣村落人口に就て

(5) 周禮に表はれたる人口政策
題未定

(6) 各國に於ける最近の人口政策

(7) 乳兒死亡指數、アルファ・インデ
ックスの季節的變動

(8) 我が國極限人口に關する一考察

(9) 獨逸人口政策の成果

(10) 社會周流と人口構成

(11) ギリシヤの興亡と人口

(12) 教育上から見た人口問題及今後
の教育方針に就て

(13) 出生率低下の傾向とその對策に
就て

(14) 現下の人口政策に於ける二つの
問題

(15) 人口と家の經濟

(16) 近世史上に見えたる武將の人口
思想

(17) 維新前の人口移動に關する若干
の問題

(18) 日本人口史上の疑問二件

(19) 歐米各國と比較したる日本人の
生物學的考察の二三

大阪府地方技師
(學務部職業課)
阿部利雄氏

横濱市立横濱商
業專門學校教授
早瀬利雄氏

東京商科大學
豫科教授
石田龍次郎氏

岐阜縣女子師範
學校教授
羽倉儀三郎氏

大東文化學院教授
加藤梅四郎氏

法政大學教授
城戸幡太郎氏

人口問題研究所
企畫部長
北岡壽逸氏

大阪帝國大學醫學部
助産師長
丸山博士

安田生命保險株式會
社アクチュアリー
水垣武雄氏

横濱高等商業學校
教授
森田優三氏

同志社大學教授
難波紋吉氏

早稻田大學教授
西野入德氏

新教育協會會長
野口援太郎氏

横濱市立横濱商
業專門學校講師
大場實治氏

東京職業紹介所
職業主事
小幡佐七氏

高松高等商業學校
教授
大泉行雄氏

中央社會事業協會
會事業研究所研究員
高橋梵仙氏

東京市書記
(電氣局總務課)
德田彦安氏

東京商科大學學長
法學博士
上田貞次郎氏

安田生命保險株式
會社醫長醫學博士
渡邊定氏

(2) 國民人口再組織問題の一項とし
て見たる指導者層の問題
横濱高等商業學校
教授 渡邊輝一氏

第二部 東亞新秩序建設の見地より見たる民族
人口に關する研究

(1) 農業人口と栽培物との關係の一
般的研究
東京商科大學講師 江澤讓爾氏

(2) I 支那大陸に伸び行く大和民族の將來性
II 支那農村勞働力と支那の下層民衆
東亞新興會理事 後藤朝太郎氏

(3) 日本民族主義に就て
國民思想研究所主事 小岩井淨氏

(4) 日本人の智能に關する研究
東京文理科大學教授 田中寬一氏

(5) 鮮農の内地定着の過程とその形
態
東京帝國大學
農學部助手 川野重任氏

(6) 蒙疆人口問題に關する一考察
慶應義塾大學 小林宗三郎氏

(7) 支那特に中支地方に於ける拓殖
衛生上の諸對策
上海自然科學研
究所員醫學博士 小宮義孝氏

(8) 大和民族發展上より見たる在外
同胞第二世の將來
明治大學教授 小島憲氏

(9) 半島人の増殖力に就て
厚生技師醫學博士 古屋芳雄氏

(10) フイリッピンに於ける邦人の分
布並に活動狀態
南洋經濟研究所囑託 三吉朋十氏

(11) 南洋に於ける日支民族の接觸面
の研究
東亞研究所囑託 原徹郎氏

(12) 題未定
滿洲移住協會
常務理事 永雄策郎氏

(13) 南洋群島及比島ダバオに於ける邦人(特
に沖繩縣人)の人口狀態と其の活動
經濟學博士
拓殖獎勵館 永丘智太郎氏

(14) 題未定
調査部主事 岡本和夫氏

(15) 外南洋に於ける邦人發展と第二
世教育問題
國民精神文化 小山嘉壽榮氏

(16) 東亞新秩序の建設の見地より見
たる民族問題
研究員 山本勝市氏

(17) 臺灣原住民人口の水平的並に
垂直的分布
臺灣總督府囑託 鹿野忠雄氏

(18) 民族政策の意義
神戸商業大學助教授 金田近二氏

- (19) 民族問題に於ける宗教に關する考察
東亞研究所囑託 棚 瀬 襄 爾氏
- (20) 北滿移民地に於ける民族交流現象に就て
東京帝國大學 農學部助 手 崎 村 茂 樹氏
- (21) 海南島には沖繩縣民の移住を圖れ
東京帝國大學教授 農學部 博士 宗 正 雄氏
- (22) 滿洲國少數種族の減退
南滿洲鐵道株式會社 總裁室 弘報課 田 口 稔氏
- (23) 日支民族の結婚に就て
法政大學 教授 高 木 友 三 郎氏
- (24) 植民と文化
鳥取高等農業學校 教授 若 木 禮氏
- (25) 滿洲を中心とする東亞諸民族の農業
北海道帝國大學 助教授(農學部) 渡 邊 侃氏
- (26) 我が國外地移民の成績
拓殖獎勵館囑託 善 生 永 助氏

第三部 長期建設の見地より見たる人的資源の配置に關する研究

- (1) 地方纖維勞務調整の私案
半田職業紹介所長 新 井 巖氏
- (2) 農村人口増加力の減衰と其の原因に就て
内閣統計局事務囑託 井 上 謙 二氏
- (3) 分村計畫に關する一研究
第四高等學校教授 犬 丸 秀 雄氏
- (4) 大東京の地方計畫方法論
都市計畫東京地方委員會第一技術部長 石 川 榮 耀氏
- (5) 人口統計に於ける産業及職業分類
農林省統計課長 東京帝國大學助教授 農學部 博士 近 藤 康 男氏
- (6) 農業人口の減少より見たる日本農業の前途
農林省統計官補 鈴木 木 稔氏
- (7) 事變下の青少年勞力の動向と農業勞働
國民思想研究所員 松 岡 二十 世氏
- (8) 鑛山勞務者の移動に就て
早稻田大學大學院 宮 出 秀 雄氏
- (9) 我が國農家の統計的分析
厚生省勞働局囑託 三 好 豊 太 郎氏
- (10) ブラジルに於ける邦人自作農並借地農耕作者の生産層比較及勞力の分配に關する研究
農林省統計官補 長 畑 健 二氏
農林省統計官補 北 川 幸 吉氏

海外移住組合 中 村 誠氏
聯合會農業技師

- (11) 事變下に於ける農業勞働人口構成の變化と農業生産機構の變質
日本勞働科學研究所 研 究 員 吉 岡 金 市氏
- (12) 本邦重工業國化過程に起る農村人口關係の諸現象に就て
農村流出勞働層と出產死亡の關係
—— 埼玉縣下三農村調査結果に基く——
東京高等師範學校 教授 野 尻 重 雄氏
- (13) 地方的に見たる工業人口の増加
東京商科大學助教授 小 田 橋 貞 壽氏
- (14) 資源配置問題の基本構造
高岡高等商業學校 教授 大 熊 信 行氏
- (15) 商業に於ける過剩人口の意義
大阪市經濟研究所 研 究 員 竹 林 庄 太 郎氏
- (16) 人口都市集中に關する問題
鐵 道 技 師 山 口 貫 一 氏
- (17) 中小工業人口に關する研究
東京商科大學教授 山 中 篤 太 郎氏
- (18) 我が國に於ける所謂過大都市に就て
商工省囑託 吉 田 秀 夫氏

第四部 事變の國民生活に及ぼしたる影響に關する研究

- (1) 傷痍軍人と職業能力
軍事保護院 事務官(補導課) 赤 松 清 一 郎氏
- (2) 戰時人口政策の基準
經濟學部副部長 青 盛 和 雄氏
- (3) 題未定
東北帝國大學教授 (法 文 學 部) 服 部 英 太 郎氏
- (4) 家族負擔均衡の二緊急問題
上智大學教授 ヨハネス・クラウス氏
- (5) 戰時下の住宅問題
大阪市主事 川 上 賢 叟氏
- (6) 事變の人口形態に及ぼしたる影響
東京市豐島區區長 磯 村 英 一 氏
- (7) 經營體に於ける人口政策的給與
協 調 會 囑 託 孝 橋 正 一 氏
- (8) 物資源の愛護と生活必需品の制限に就て
大八洲教教主 黒 野 張 良 氏
- (9) 業態別人口播殖率と厚生要件としての合理的退職年齢の算定に就て
大阪府地方技師 (學務部職業課) 阿 部 利 雄氏
- (10) 都市要保護階級生計費に於ける實支出中飲食物費の割合に就て
東京市書記(厚生局) 牧 賢 一 氏
- (11) 戰時に於ける人間再生産問題
小樽高等商業學校 教 授 南 亮 三 郎氏

(13) 事變下母子保護機關に對する所見
——特に母子ホーム保護管理に就て——

(12) 國民生活問題
協同會囑託(調查部)

(11) 郵便貯金の示唆する現下人口問題の動向に就て
逓信省貯金局

(10) 景氣變動と人口
小樽高等商業學校教授
授北海道經濟研究所

第五部 人的資源の維持涵養に關する研究

(9) 農村民の都市移動と結婚問題
石川縣地方技師

(8) 國民體位に及す凶作の影響に就て再論す
榮養研究所技師

(7) 決定せる癩壯丁曲線と全國癩患者推定數
國立癩療養所長
星城敬愛園長

(6) 民族衛生學の體系に就て
醫學博士
公衆衛生院教授

(5) 戰時に於ける禁酒政策の展開
日本國民禁酒同盟
主事

(4) 異常兒人口と鑑別標準
恩賜財團愛育會愛育
研究所教養部員

(3) 統計上より見たる本邦の下痢及腸炎
厚生技師醫學博士
井村哮全氏

(2) 題未定
東京帝國大學講師
泉橋善善病院長
部長醫學博士

(1) 近親及先輩友人間に於ける生産小查
全日本方面委員
聯盟醫學博士

(10) 貧富の差に依る初産婦の結婚年齡並に其の分娩經過に就て
聖路加國際病院
醫學博士

(9) 本邦婦人の年齡別生産受胎率に就て
公衆衛生院助手
久保秀史氏

(8) 乳兒死亡率の低下、壯丁體位向上と農村玉蜀黍食との關係
糧友會理事
陸軍主計少將
丸本彰造氏

(7) 生活環境と身體の形態並に機能との關係に就て
公衆衛生院助手
醫學博士
石川知福氏

(14) 國民の體位向上と水産食糧
日本大學(商經學部)教授
飯田照夫氏

(13) 白米食禁止に必要な米の科學的檢定法
榮養研究所技師
佐伯矩氏

(12) 米の新古と搗精度に依るグイタミンB含有量の變化
榮養研究所技師
松室秀夫氏

(11) 農村の體育問題
厚生省體育官
醫學博士
野津謙氏

(10) 農村人的資源確保策としての社會保健婦制度
厚生技師人口問題研究
所研究官醫學博士
西野陸夫氏

(9) 民族優生と斷種法
公衆衛生院教授
東京市保健館長醫學博士
齋藤潔氏

(8) 人口問題の數に關する生物學的考察
東北地方の配偶妊娠率と生産育兒率(第一回)
醫學博士
篠田紘氏

(7) 家庭に於ける子供の數と其の質の問題
恩賜財團愛育會愛育
研究所教養部主任
山下俊郎氏

(6) 人的資源確保より見たる異常者農繁期に於ける農家共同炊事の村民健康上に及ぼせる效果の一例
東京聖啞學校教諭
川本宇之介氏

(5) 農村に於ける保育問題
糧友會主事
外岡和雄氏

(4) 結婚年齡の決定
醫學博士
竹内茂代氏

(3) 婦人の出生力に就て
公衆衛生院講師
立川清氏

(2) 題未定
日本醫科大學教授
戶塚武彥氏

(1) 「ローレル」氏身體充實指數と身長との關係
日本醫科大學研究生
江田得一氏

(10) 題未定
恩賜財團愛育會愛育
研究所教養部員
牛島義友氏

財團法人人口問題研究會「第二回人口問題全國協議會報告書」の發行

昭和十四年十二月二十五日、財團法人人口問題研究會に於ては、第二回人口問題全國協議會報告書を發行したが、同協議會の經過を輯録すると共に、九十二題に達